

氏名	栗飯原 文子 教授
こんな研究をしています	英語圏・仏語圏アフリカの文学、特に小説を中心に研究しています。 アフリカの映画や音楽についても学んでいます。
こんな成果を挙げています	<p>【論文】</p> <p>「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第3回 アフリカをクィア化する／クィア化するアフリカ——クィアアフリカ文学の波」『思想』岩波書店、2019年12月号。 「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第2回 メイド・イン・アフリカの可能性——アフリカの出版の未来」『思想』岩波書店、2019年6月号。 「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第1回 アフリカ文学とはなにか ——五〇年後の始まり」『思想』岩波書店、2018年10月号。 「移動をめぐるアフリカの物語」『思想』岩波書店、2017年8月号</p> <p>【翻訳】</p> <p>チゴズィエ・オビオマ『小さきものたちのオーケストラ』早川書房、2021年 オインカン・ブレイスウェイト『マイ・シスター、シリアルキラー』早川書房、2021年。 チゴズィエ・オビオマ『ぼくらが漁師だったころ』早川書房、2017年。 ウォレ・ショインカ「狂人と専門家」『紛争地域から生まれた演劇 7』国際演劇協会日本センター、2016年。 チヌア・アチェベ『崩れゆく絆』光文社古典新訳文庫、2013年</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカのポピュラー・カルチャー ・パンアフリカニズムの歴史・思想 ・アフリカ哲学 ・旧植民地世界の文学 ・アジア・アフリカ・ラテンアメリカ(いわゆる第三世界)の連帯の歴史
こんな授業を行なっています	多言語相関論 IA(春)/IB(秋) さまざまな地域・言語圏の文化/文学を読解、分析するための理論と実践方法を学びます。なお、2022年度は在外研究で休講です。
学会や社会でこんな活動をしています	翻訳が好きです。アフリカ(系)の作家による、古典から最新の作品まで、重要なもの、おもしろいものを日本語で紹介できるように頑張りたいと思っています。
研究分野の基礎文献を紹介します	<p>Cheikh Anta Diop, <i>Nations nègres et culture</i>, 1954.</p> <p>UNESCO <i>General History of Africa I-VIII</i>. (『ユネスコ・アフリカの歴史』日本語版)</p> <p>V.Y. Mudimbe, <i>The Invention of Africa: Gnosis, Philosophy, and the Order of Knowledge</i>, 1988.</p> <p>Assia Djebar, <i>L'amour, la fantasia</i>, 1985. (アジア・ジェパール『愛、ファンタジア』石川清子訳)</p> <p>Tsitsi Dangarembga, <i>Nervous Conditions</i>, 1988.</p>